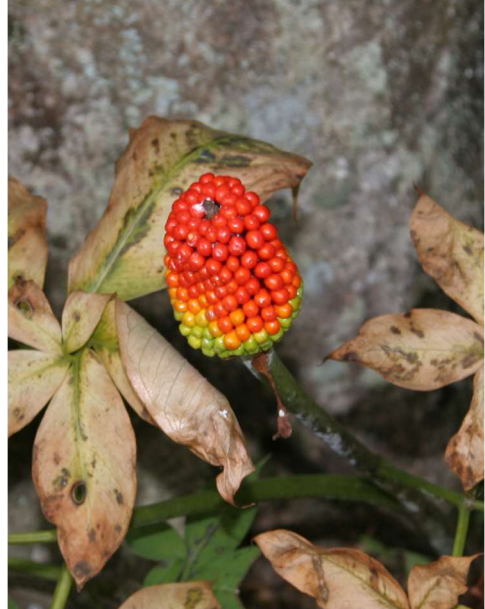


テンナンショウ属（マムシグサ）の 植物による食中毒に注意！



開花期のマムシグサ
(厚生労働省ホームページより)



マムシグサの果実
(厚生労働省ホームページより)



マムシグサの若い果実
(厚生労働省ホームページより)



マムシグサの地下球茎
(厚生労働省ホームページより)

- 一般名：テンナンショウ類（別名：ヘビノダイハチ、ヤマゴンニャク(山蒟蒻)）
学名：*risaema* spp. マムシグサ *Arisaema japonicum* Blume など
生育地：テンナンショウ属植物は北海道から沖縄まで全国的に分布する。
湿った林床に多いが、河川敷等にも見られる種もある。
発生時期：果実をつける初夏から秋にかけての誤食による事故が多い。
形態：多年草で、地上部は普通葉を1-2枚つけ、地下部には扁球形の地下茎がある。
春から夏に、サトイモ科の特徴である肉穂花序と仏炎苞を持った「花」をつける。
花後、粒状の果実をトウモロコシ状につけ、熟すと朱赤色になって目立つ。
中毒症状：口に含むと30分以内に発症。口唇、口内のしびれ、腫れなどのほか、強い痛み。
毒性成分：シュウ酸カルシウム（calcium oxalate）